

2025年3月期 決算説明会(WEB会議) Q&A サマリー

Q: 国内の東北、春日井、四日市工場と海外の CKD 中国工場の現在の状況

A: 昨年度第4四半期から、半導体の一部の顧客にて、前倒し需要の反動による減速感が出てきた影響で、春日井工場や四日市工場の足元の稼働が若干落ちております。
一方、中国工場においては、昨年度第4四半期から稼働が上がっており、現在も維持しております。

Q: 自動機 業績見通し

A: 産機では、リチウムイオン電池製造システムは今年度以降の需要見通しには不確実性があり、今期は減収減益を予想しております。包装では、薬品包装機の本体需要は継続するものの、昨年度と比較し大型の投資案件が減少する見通しのため、減収減益を予想しております。

Q: 機器事業のセグメント利益について

A: 半導体市場向け製品の売上は、今年度下期から回復し、2026年度には本格的に回復すると見ております。
下期からの回復に備え、今後新工場に生産をシフトしていき、生産性の良い新工場の稼働率が上がることで利益率が向上すると考えております。

Q: 関税の影響について

A: 直接的な影響は軽微と見ており、今期の業績予想に盛り込んでいます。間接的な影響については判断が難しく、各国の動向に注視して見極めてまいります。

Q: キャッシュ・アロケーションについての考え方

A: 現在の中期経営計画において、積極的に投資を行ってまいりました。今後1~2年は、投資した工場の稼働率を上げ、キャッシュを創出することに注力してまいります。生み出したキャッシュで更なる成長投資と株主還元につなげてまいります。